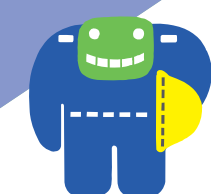
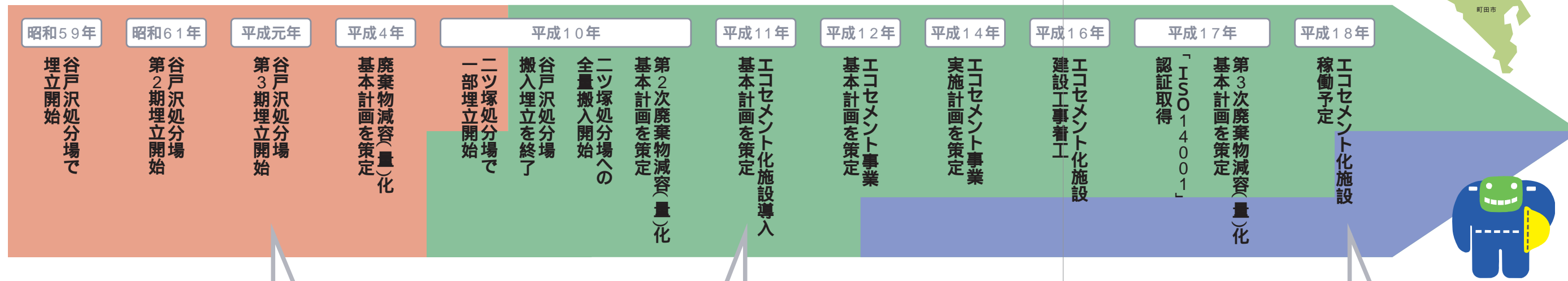


資源循環型社会のモデルケースを世界に発信！ 多摩環境新時代への確かな歩み

これまで処分組合では環境に配慮した処分場の管理運営に取り組んできました。来春には、いよいよエコセメント化施設が稼働を始めます。多摩地域のみならずとも、資源循環型社会づくりを推進していきます。

処分組合の取り組み



谷戸沢処分場

埋立終了後も万全の維持管理を行い、順調に自然が回復しています

谷戸沢処分場では、昭和59年から14年間にわたり、多摩地域25市1町から出るごみの最終処分が行われていました。全体埋立容量は380万m³あり、内陸型処分場では例のない規模の処分場でした。

平成10年4月に埋立は終了しましたが、その後も処分組合では適切な維持管理を継続して行っています。

埋立跡地は22ヘクタールという広大な草原となりました。現在では四季を通じてさまざまな動植物が棲息するようになり、秋にはススキが群生し、ノコンギクなどの花が咲いています。また、敷地内に清流復活事業として貯水池を設け、新たな環境をつくったことで、水辺

を好むコガモやカイツブリ、セキレイ類といった鳥類やトンボ類が増えました。

処分組合では谷戸沢処分場の開場以来、動植物の生態系への影響を見守るため、長期にわたって生態モニタリング調査を行ってきました。これまでに谷戸沢処分場には1000種以上の昆虫類、100種以上の鳥類が確認されており、その種類は今も増加しています。日の出町の天然記念物であるトウキョウサンショウウオも産卵池の整備などの保全措置により、現在も産卵を続けています。また、処分場の下流には一時期減少していたゲンジボタルが復活するなど、順調に自然の回復が進んでいます。



貯水池で見られるコガモ。



ススキが秋の訪れを伝える谷戸沢処分場。



谷戸沢処分場内の植栽。

二ツ塚処分場

周辺環境の保全のため、国内最高水準の管理体制で埋立を行っています

二ツ塚処分場は谷戸沢処分場に代わる、多摩地域2つ目の最終処分場です。平成10年1月からごみの搬入が始まり、可燃ごみの焼却灰と破砕された不燃ごみが、ほぼ毎日500トンから600トンほど埋め立てられています。

二ツ塚処分場での埋立事業は、国内最高水準の管理体制のもと、安全を第一に運営しています。たとえば、環境への影響を調べるため、処分場内の水質、土壌などの調査を定期的に行っています。処分場の地下水等の水質検査やダイオキシン類の調査では、環境基準を下回る数値となっており、処分場および周辺地域の環境が守られていることが確認されています。

また、処分組合では二ツ塚処分場の安定利用を図るため、平成10年に「第2次廃棄物減容量基本計画」を策定し、計画的なごみの減容量を推進してきました。計画は着実に成果をあげ、ごみの搬入量は平成15年度以降減少の傾向を示しています。

一方で二ツ塚処分場の埋立量は、平成17年11月現在で全体の4割を超えました。このペースで埋立が進めば、10年以内に二ツ塚処分場は満杯となります。しかし、用地確保などの問題から、新しい処分場をつくるのは困難な状況です。このため、処分組合では新たに「エコセメント事業」に取り組み始めました。

25市1町のごみが埋め立てられている二ツ塚処分場

平成17年11月撮影。たった1年余で、かなり埋立が進んでいます。



平成16年8月撮影。

エコセメント事業

ごみ焼却灰を資源として再生利用する、循環型社会づくりの新たな取り組みです

エコセメント事業は、二ツ塚処分場をより有効に活用していくために、平成11年2月から計画がスタートした新たな取り組みです。

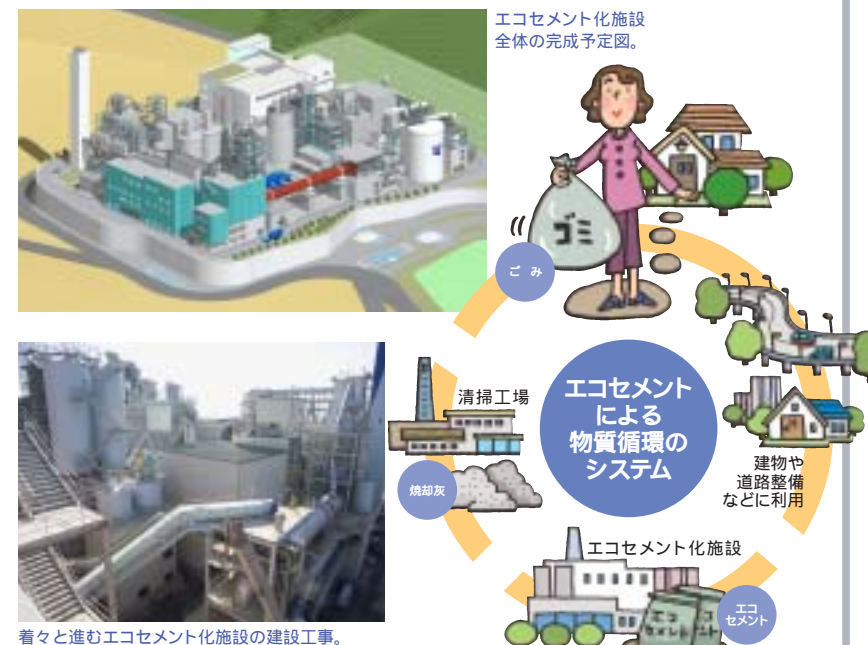
エコセメントとは、可燃ごみの焼却灰を主原料として製造される、新しいタイプの土木・建築資材用セメントです。JIS規格で普通セメントと同等の品質をもつことが実証され、安全性も十分に確認されています。

現在、二ツ塚処分場に運ばれてくるごみのうち、約7割が焼却灰です。これを資源としてリサイクルすることで、埋め立てるごみの量を大幅に削減でき、処分場の使用期限を延ばすことができます。

平成16年1月に施設の建設に着工し、現在、順調に工事が進んでいます。造成・建設工事で発生する残土は二ツ塚処分場の覆土として使用するなど、環境に配慮した工事を行っています。

施設が完成して試運転を繰り返した後、来春、いよいよ本格的に稼働します。エコセメントは道路整備や建築資材等に幅広く使われる予定です。

ごみ焼却灰を資源として活用するエコセメント事業は、ごみ問題を打開する物質循環のモデルとして国内外から広く注目を集めています。この事業の推進により、多摩地域は資源循環型社会を実現する環境先進地域として大きな一歩を踏み出すことになります。



子ども広場 ごみ減量のためにできることは？

ごみを減らすためには、まず、みんながごみを出さないようにすることが大切です。普段の生活の中での物を大事に使い、いらなくなっても別のものに再利用するなど、ごみを少なくする方法はいろいろあります。下のエコチェックを参考にして、できるだけごみを出さないように気をつけましょう。

【ごみ減量のエコチェック】

- できるだけものを大切に使う
- 食べ残しをしないようにしている
- 必要のないものは買わない
- 買い物とき、マイバッグを持ってくる
- リサイクル商品を使っている
- フリーマーケットなどを利用している
- 資源回収に協力している
- ごみはきちんと分別して出している



新副管理者の挨拶

新副管理者：細淵一男（東村山市長）



このたび、処分組合の副管理者に就任いたしました。いま、私たちは便利で豊かな生活を求める一方で、地球の資源を浪費し続けており、温暖化や環境破壊などで地球に負荷を与え続けています。未来を考えた場合、いまできることはなんなのかを考え、環境問題に取り組むことが必要です。これからも、ごみの減容量と資源化に各市が取り組み、各組織団体の皆さんと連携しながら、責任を持って最終処分場の運営に取り組んでまいります。

新副管理者：黒須隆一（八王子市長）



多摩25市1町のごみの最終処分は、市民生活に大きな影響を与える最重要事業です。日の出町の皆様にはこの事業運営への多大なご理解、ご協力に深く感謝申し上げます。私は環境省中央環境審議会の専門委員会において地方自治体代表として、「『もったいない』が生み出す資源」をテーマにエコセメント事業の有用性などを訴え、多摩地域のごみ処理の先進性を報告してまいりました。多摩各市においても次々にごみの減容量施策が行われ、更に次のステップへの取り組みとして、発生抑制の推進が大きな課題となっております。こうした背景と現状を真摯に受け止め、副管理者として就任した重責を全力で果たす決意しておりますので、よろしくお祈りいたします。

新理事の挨拶

新理事：邑上守正（武蔵野市長）



常日ごろ当市を含む多摩のごみ処理について、日の出町の皆様のご理解とご協力に対し深く感謝を申し上げます。私は市長就任2日目に最終処分場を視察しましたが半分近くが埋め立てられており、より一層のごみ減量と資源化推進の必要性を痛感いたしました。当市は昨年10月から家庭系ごみの有料化と戸別収集を実施し、可燃ごみと不燃ごみについて前年と比較すると約18%減量することができました。今後も市民の皆様のご協力を得ながら一層のごみ減容量施策を推進してまいります。また、組合理事としても精一杯努力をしてまいりますので、どうぞよろしくお祈りいたします。